中日会報

名誉副会長 鬼頭翔雲先生揮毫

新年のご挨拶

名誉会長　神田真秋

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は中部日本書道会のため何かとお力添えいただき、まことに有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、お正月といえば、年賀状が届くのを楽しみにしておられる方も多いことと存じます。毎年私も、いただく年賀状を一枚一枚ゆっくり拝見するのが、正月恒例の楽しみになっています。お正月らしいもっとも心が和むひととときです。

ですが、近年はその年賀状を出す人が年々減少しているとのことです。確かに私の周辺でも、「年賀状じまい」をする人が増えてきています。また、そもそも今の若い人たちは、新年の挨拶をSNSや電子メールで済ます人も多いと聞きます。近頃の郵便料金の値上げも影響していることでしょう。今はそんな時代になったのかと思うとともに、年賀状離れを残念に思っている人もきっと多いのではないかと想像しています。

かつては手書き文化の象徴的存在であった年賀状です。たとえ手書きから印刷のものに変ってきても、またお出しする年賀状の枚数が減っていても、正月に年賀状で挨拶する文化はこれからもずっと残していきたいと、私などは考えています。

とはいえ、かく言う私も年齢を重ねる中で、いつまで続けることができるのか自信がありません。いつか私も年賀状じまいを言い出すことになるかもしれません。ですが、年賀状は疎遠になっている人の顔を思い浮かべ、その人のことを思う貴重な機会ですし、また今も元気にしていることをお伝えする絶好の機会でもありますので、まだしばらくの間は続けていきたいと考えています。そしてそのことが、かつての手書き文化復活に少しでも繋がることになってゆけば、幸いなことと思っています。

今年には日本の書道がユネスコの無形文化遺産に登録される可能性が大きいと言われていますので、書道界にとって充実した一年になるよう努めてまいりたいと考えております。会員の皆様には、どうか健康に恵まれ元気いっぱいご活躍されることをお祈りいたします。

本年も中部日本書道会をどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長　松下英風

新年あけましておめでとうございます。

昨年の六月より理事長に就任致しまして、早や半年が過ぎました。昨年度は、前理事長の伊藤仙游先生を中心に創立九十周年事業が盛大に行われました。愛知県美術館ギャラリーにて、役員の先生方による席上揮毫や先人の卓越した臨書作品の展示、ナディアパークにて高校生による書道パフォーマンスなど、記憶に残る素晴らしい記念事業となりました。

本年の中日書道展は、第七十五回を迎え記念展となります。そして、年末には、「書道」がユネスコ無形文化遺産登録されることが、確実になってまいりました。実に喜ばしい事です。

また、今年は「丙午（ひのえうま）」であり、六十年に一度巡ってきます。「丙（ひのえ）」は、十干（じっかん）の三番目で「火」の要素を持ち、太陽の明るさや生命のエネルギーを表すとされています。

また、「午」は、古くから人間と共に生きてきた動物。駿足を持ち、独立心が強く、人を助けてくれる存在でもあります。それ故に丙午の年は、「勢いとエネルギーに満ちて活動的になる」年と言われています。

本会の事業が丙午の恩恵を受け、日本の「書道」が全世界に向けて波及し、子供から大人まで多くの方が楽しみながら発展していきますよう、企画委員や事務局一同、一丸となり進めて参りたいと思っています。

その為には、皆様のご支援ご協力が不可欠であります。また、会員の増強も不可欠であります。

会員の皆様のご支援ご協力により、本会の活動が、丙午の今年、勢いとエネルギーに満ちた活動的な年になりますよう切に願い、本会を運営していく所存でございます。

最後になりましたが、皆様のご健筆とご活躍をお祈り申し上げます。

公益社団法人中部日本書道会
編　集　事務局編集部
〒450-0002　名古屋市中村区名駅二丁目45-19
桑山ビル８階Ｃ号室
電　話(583)１９００番
ＦＡＸ(583)１９１０番
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印　刷　株式会社 荒川印刷

目次

1 年頭所感（題字 名誉副会長鬼頭翔雲先生揮毫）
2 神田真秋名誉会長新年の挨拶
松下英風理事長新年の挨拶
第70回現代書道二十人展名古屋展案内
3 第37回書道教育研修会
4 【個展拝見】加藤子華先生
5 【個展拝見】加藤裕先生
6 【個展拝見】岡野楠亭先生
7 第6回書の匠展・第34回壽書展
第29回書の魅力公開講座
令和7年度理事会 評議員会 講演会案内
8・9 第41回読売書法展入賞者名簿
10 第76回毎日書道展入賞者名簿
11 第118回日展
本年度審査員を委嘱して（名誉副会長鬼頭翔雲先生）
12・13 第76回中日書きぞめ展案内
14～16 第75回記念中日書道展出品案内抜粋
令和7年チャリティー愛の募金
16～19 支部だより
20 書道教室推薦看板案内・訂正記事・訃報・
社中展案内・編集後記

第70回 現代書道二十人展名古屋展 ご案内

常任顧問
かな 近藤浩乎先生

常任顧問
篆刻 岡野楠亭先生

※本会より２名の先生がご選出されました。
多くの皆様に足をお運び頂き、ご観覧下さいますようご案内申し上げます。

会　期　令和８年１月24日(土)～２月１日(日)　会　場　松坂屋美術館（松坂屋本店南館７階）

第37回 書道教育研修会を開催して

教育部長　川本大幽

会期　令和7年10月19日(日)　会場　名古屋国際センター5F

令和七年十月十九日（日）名古屋国際センター五階第一会議室に於いて、第三十七回書道教育研修会が行われました。受講者は四十三名（会員三十二名・会員外十一名）で開催されました。

開会挨拶を本会副理事長後藤啓太先生が、引き続いて書道講話を理事長松下英風先生が「円を使っての線の引き方」について話された。研修会午前の部は副理事長梶山盛涛先生により「趙之謙に魅せられて」と題して、人物像から楷書・行書の特徴を半紙に揮毫されながら解説して頂きました。プロジェクターを用いたので先生の書かれている手元がモニターに映し出され、腕や筆の動きや呼吸を感じ取りながら学ぶことが出来ました。その後、受講生が書作したものを先生が一人一人丁寧に添削され、趙之謙の筆法の一端を会得した気分になり、受講生の皆さんは有意義な時間を過ごされました。

午後の部は「淡墨を楽しむ」と題した、理事神谷光園先生による実技指導講座で、少字数や文房四宝についての解説の後、淡墨の作り方をご教授頂き、三種類の紙による墨の滲み具合の違いを示されました。その後、受講生も好きな文字を書き、最後には神谷先生も淡墨を使って「灌頂記」を臨書され、その書き上げた作品に皆が見惚れていました。最後に各自が書いた作品を持ちよって記念撮影となり、和やかなうちに終了しました。両先生ともに時間の許す限り席間を巡り、懇切丁寧なご指導を頂きました。

最後になりましたが、部長となっての初めての教育研修会を担当して、戸惑いも多く至らぬ点もございましたが無事終わることが出来ました。これも理事長松下英風先生はじめご出席の先生方、教育部の皆様のご助力、そしてご参加頂いた受講生のご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

理事長 松下英風先生の講話

模範揮毫する梶山盛涛先生

解説する神谷光園先生

受講生と記念写真

個展拝見

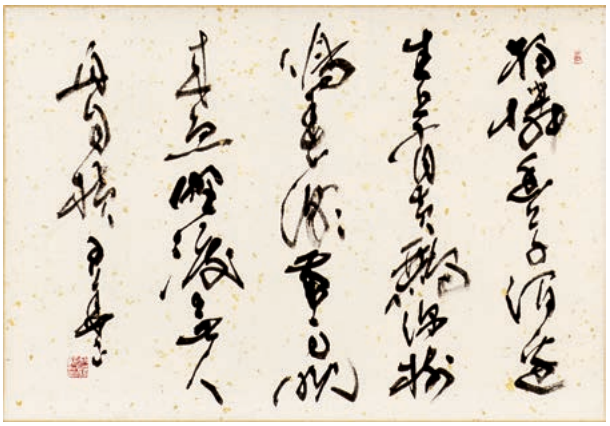
加藤子華　書の世界 ―書の美を求めて―

日展会員、中部日本書道会常任顧問他多数の要職、重責を担う多忙な中、加藤子華先生は自身四回目の個展として、三重県菰野町のパラミタミュージアム（公益財団法人岡田文化財団運営）からの要請招待を受けて、令和七年五月三十一日から七月二十一日までの約二か月間を「加藤子華 書の世界」展として開催されました。

出品内容は細字作品から大作まで多種多様で、五十七作品の構成となっており、展覧会後の今では作品の意を文字で伝えられるとは思いませんので、その時に評論をされました魚住和晃先生（神戸大学名誉教授）の表現をお借りしますと『（中略）茶掛軸装（中略）他、屏風が六作あって、しかもそれぞれ仕様に工夫がある。さらに蝋箋、冷金箋、瓦当箋などが駆使されて、色彩も豊かである。墨量、線の強さ、文字の大小の変化、形、結体から行間・余白の使い方、造形力の妙味など運筆に自由の極地があり、会場が楽しさで溢れている（以下略）』と評していただきました。

末筆ながら、ご来場されました皆様には深く感謝致します。有難うございました。

（文責　中条彰山）



韋應物「滁州西澗」

抱　甕

獅子一吼

昭和60年（1985）　甫田鵄川に師事
平成10年（1998）　第30回日展特選受賞
14年（2002）　第34回日展特選受賞
21年（2009）　中日功労者表彰
22年（2010）　日展会員
27年（2015）　三重県文化大賞受賞
令和元年（2019）　文化庁地域文化功労者として文部科学大臣表彰
7年（2025）　第４回個展（パラミタミュージアム）

と　き　2025年5月31日（土）▶ 7月21日（月・祝）

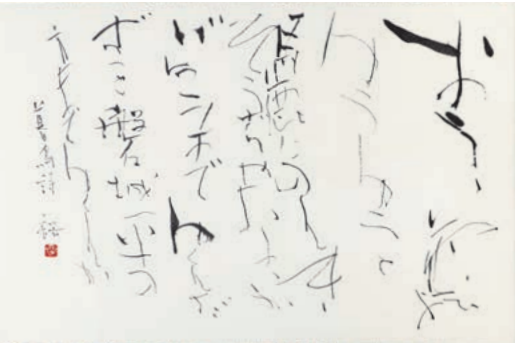
ところ　パラミタミュージアム

個展拝見

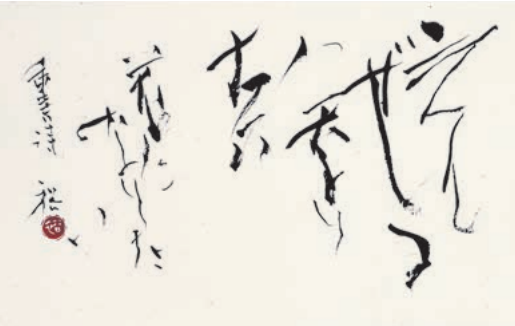
加藤 裕書展 2025

令和七年八月二十六日～三十一日、東京・銀座の鳩居堂画廊三階で「加藤裕書展2025」が開催されました。地元名古屋では12回、さらにイタリア、チェコでも個展は開催していましたが、11年ぶり初の東京での個展開催となりました。多忙を極める中での作品制作ではありましたが、近代詩文書では、山村暮鳥・八木重吉等の優しい言葉たちに囲まれ、繊細な線の響き合う毎日見たい作品、ずっと見ていて飽きない作品の数々、また漢字作品では強い思い入れのある「琅玕」（ろうかん：最高級の翡翠を表す言葉から、美しいもののたとえ。美しい文章）を筆頭にさまざまな表情の作品が生まれました。その表現は一辺倒にとどまらず、尚且つ一点一点拘りぬいた表装――瀬戸の陶額や古布そして坂本直昭氏の紙を使用した軸装・額装等、美的センスが光る作品群。書への高い高い志が貫かれた作品の並んだ鳩居堂画廊は、大変見応えのある、書の楽しさを存分に味わえる空間となりました。『一人の作家の作とは思えない』と何人もの方が仰るほど、皆さん多彩な表現に魅了されていました。その拘りを垣間見、説明を受けると二巡三巡と何度も見たくなり、長時間滞在される方、会期中何度も足を運ばれる方など本当に多くの方々にご覧いただき好評を博しました。また銀座ということもあり、海外の方からもたくさんの質問をいただく場面もあり、会場は常に賑わっていました。大変暑い夏の開催となりましたが、成功裏に終わりましたこと、遠方よりお越しいただいた先生方、ご来場いただいた皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責　小宇佐久美）



おういい雲よ



えんぜるになりたい

鳳　翔

1952年　愛知県名古屋市生
1975年　金子鷗亭に師事
2021年　毎日書道展文部科学大臣賞受賞

（公社）創玄書道会　常務理事
（公社）全日本書道連盟　理事
（一社）毎日書道会　理事

と　き　2025年8月26日（火）▶ 8月31日（日）

ところ　鳩居堂画廊

個展拝見

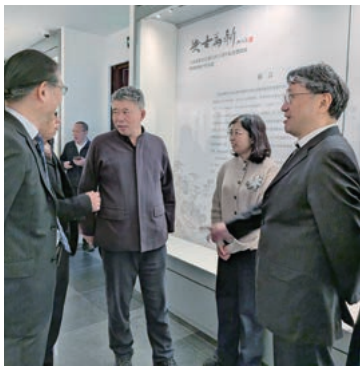
岡野楠亭西泠印社名誉理事就任記念展

令和七年十一月十四日（金）より二十九日（土）まで中国杭州西泠印社にある中国印学博物館において瑤藍印社創立四十周年記念「瑤藍印社選抜展」及び「岡野楠亭西泠印社名誉理事就任記念展」を開催しました。今展は、二〇二三年の西泠印社一二〇周年式典におきまして岡野楠亭先生がこれまで多年に亘る日中文化交流に対するご尽力とご功績が高く評価され、西泠印社名誉理事にご就任されました事と、瑤藍印社が本年創立四十周年の節目を迎えることを記念し、このたび西泠印社の主催により開催する運びとなりました。開幕式には西泠印社副社長兼秘書長の陳振濂先生、中国書法家協会副主席王丹先生をはじめ多くの篆刻家・書道家の方々にご参列していただき、また日本からも三十六名が参加し大盛況となりました。この記念展を機に更なる日中友好文化交流に対する絆を深めて参りたいと思います。何卒よろしくご支援ご指導のほどお願い申し上げましてご報告とさせていただきます。

（文責　日比野妃扇）

開幕式テープカット

龍文百斛鼎


右から西泠印社副社長陳振濂先生、
中央が中国書法家協会副主席王丹先生

1960年　三重県伊勢市生
1984年　中島藍川に師事
2002、2008年　日展特選受賞
2016、2022年　日展審査員
2024年　日展会員賞受賞

（公社）日展会員
謙慎書道会常任理事
全日本篆刻連盟副理事長
西泠印社名誉理事

と　き　2025年11月14日（金）▶ 11月29日（土）

ところ　中国印学博物館（杭州西泠印社）

第6回書の匠展・第34回壽書展を開催して

会期　令和7年11月26日(水)～11月30日(日)　会場　電気文化会館　東西ギャラリー

渉外宣伝部長　伊藤昌園

令和七年度書の匠展は十一月二十六日から十一月三十日までの五日間にわたり、電気文化会館にて開催され、入場者は808人を数えました。名誉会長神田真秋先生と名誉会長代行樽本樹邨先生の御作品を中心に名誉副会長・常任顧問・理事長・副理事長・理事・監事・顧問・参与・評議員の会員157人の出品。壽書展は正会員・準会員・会員外の42人が出品し、両展ともにその内容は漢字・かな・近代詩文・少字数・篆刻を網羅し、熟達した見応えのある作品の数々でした。（最高齢94歳）また、今回より西ギャラリーのレイアウトを一部変更し、名誉会長から常任顧問の先生方の作品をメインの壁面に少し余裕をもたせて展示いたしました。ご来場の方々は時間をかけてお気に入りの作品を熱心に鑑賞し、堪能されていた様子でした。

また最終日には「第二十九回書の魅力公開講座」が開催され、講座に足を運ばれた受講者の方々も休憩時間などに展覧会を鑑賞されていらっしゃいました。

5部門157人が力作　「書の匠展」始まる

名古屋

東海地方を代表する書道家らの作品を展示する「第6回書の匠展」（中部日本書道会、中日新聞社主催）が26日、名古屋市中区の電気文化会館ギャラリーで始まった。30日まで。

漢字、かな、近代詩文、1文字から3文字で構成される少字数、篆刻の5部門の作品が並ぶ。同会の役員ら157人が1点ずつ出展した。

やわらかいタッチで書かれたかな文字や墨汁のにじみで立体感を演出した作品などが目を引く。コメダ珈琲店の看板の文字を手がけた書道家で同会の名誉会長代行の樽本樹邨さん(88)の作品も見どころの一つ。力強く太い筆致で「陶鋳」と書きあげた。

同会の伊藤昌園渉外宣伝部長(43)は「きりっとした字や丸い字など、書き手の性格が表れた作品が多い。たくさんの作品の中からお気に入りの一点を見つけてほしい」と話した。

70歳以上の会員や愛好家ら42人による「第34回寿書展」を併催している。ともに午前10時～午後5時（最終日は午後3時まで）、入場無料。

力強い筆遣いの作品が並ぶ会場＝名古屋市中区の電気文化会館で

中日新聞　11月27日掲載

出品者

【書の匠展】

神田真秋
樽本樹邨
安藤滴水
鬼頭翔雲
松下英風
梶山盛涛
後藤啓太
山本雅月
天野白雲
磯谷凄聴
伊藤小游
岩田潤流
内田翠径
大池青岑
大木青嵐
尾嵜紫光
加藤矢舟
上小倉積山
神谷光園
川合玄鳳
衣川彰人
佐野翠峰
鈴木立齋
髙木玄齊
柘英峰
中林景
長谷川鸞卿
馬場紀行
原田凍谷
広井秀琳
廣澤凌舟
古川昇史
丸山聖峰
水野峯翠
山中桂山
川本大幽
村上史麗
安藤昌石
伊藤仙游
梶山夏舟
加藤子華
加藤裕
黒田玄夏
後藤汀鶯
近藤浩乎
早川泰山
松永清石
横井宏軒
伊藤暁嶺
遠藤栄久
落合深淵
片山清洲
木戸竹葉
工藤俊朴
近藤素光
武内峰敏
武山翠屋
田中石雲
津田秋月
富田栄楽
中村秀峰
中村立強
波切童州
丹羽常見
松浦華苑
水谷海越
村瀬俊彦
山内江鶴
山際雲峰
横山夕葉
磯和鴻東
杉坂育子
鈴木瑞象
青山高陽
秋松秀玲
安藤清香
猪飼閑雲
石井瑞鶴
石原清至
伊藤翠芳
伊藤静春
今田紅溪
入谷霞流
岩瀬臘月
内本久園
遠藤紫香
遠藤紫聖
大鐘紫陽
大河戸柳光
太田佳香
大塚窓月
岡田愛子
奥村碧洋
尾関楊花
籠瀬提花
加藤秀慧
加藤碧涛
神谷采邑
河原﨑坡青
川本赫汀
木澤麗川
國島英華
久野天山
熊崎北咏
香村孤竹
小島岐香
小島初美
近藤晴翠
近藤梅鶯
齋藤芝香
佐久美泉涯
佐藤水香
佐藤桑碩
志水玉華
志村舟泉
白木紫香
杉浦琇鈴
杉山瓊川
鈴木容華
世古口大虚
髙島濤翠
竹内梅泉
田島不染
鴇澤澄江
中川貴舟
永瀬紅蘭
永谷恵子
中村曽南
新美珠光
根谷捷子
野中曽川
野村暁峰
野村揚月
阪野小波
坂野竹童
平野公鶴
平野公慎
平松圭鳳
深田芳香
深津洋子
福島有何
古田秀紅
牧仙岳
松澤昂永
松田鶴鵬
光澤閑石
宮田清風
三輪三麗
森政子
山内香霖
山川昌泉
山川孝子
山本史鳳
吉澤劉石
米田厓陽
渡辺月潭
佐藤桃華
柴田恵子
澁谷弘峯
清水水僊
杉本錦楊
長澤美峰
永田正毅
夏目美沙
野村繁子
半田幸瑩
飛田泰仙
前野秋豊
矢田游舟
加藤真郷
近藤向華
佐伯つた子
鈴木志保
田辺泰子
水谷和舟
山田望星
山田蘭馨

【壽書展】

伊藤二郎
岩田旭峰
遠藤鶴川
神谷秀峰
竹山秋峰
野村透
本多恭子
柚原博
吉田光善
飯田紫泉
池阪圭月
伊藤正治
井上三保子
加藤碩望
幸村玉霙
小塚白樹
小早川恵祥
小林秋月
榊原観峰
佐々木映雪

（順不同）

第29回 書の魅力公開講座

会期　令和7年11月30日(日)　会場　電気文化会館　イベントホール

研究部長　磯谷凄聴

令和七年十一月三十日（日）名古屋電気文化会館五階イベントホールにおいて「第二十九回公開講座」を開催いたしました。八十六名の参加をいただき、行うことができました。

松下英風理事長のご挨拶に引き続き、第一講座の本会理事 高木玄齊先生による「隷書への招待」と題した講演が始まりました。高木先生の隷書に対する深い造詣がひしひしと伝わってきました。隷書の歴史の話に始まり、漢代を代表する「曹全碑」、「乙瑛碑」「礼器碑」等における、それぞれの表現の違いについて、大変わかりやすくお話くださいました。

第二講座は、本会理事 水野峯翠先生による「仮名へのいざない」と題した講演でありました。仮名文字の発生から、古筆を学ぶ意義、筆の持ち方と姿勢まで丁寧にお話くださり最後には、作品制作の実践までご指導いただき、受講生は大変喜んでいました。

最後に、ご多用のところ講師をこころよく引き受けていただいた両先生に厚く御礼申し上げます。

本会役員と講師

講座風景

〈漢　字〉　髙木玄齊先生

〈か　な〉　水野峯翠先生

令和七年度 理事会・評議員会・講演会のご案内

〈予　定〉

令和八年二月八日（日）

会　場　名古屋東急ホテル

第3回理事会

4階「栄の間」

時　間　13時30分より

第1回評議員会(報告会)

3階「ルネッサンスの間」

時　間　15時30分より

講　演　会

3階「ルネッサンスの間」

時　間　16時30分より

講　師　歌誌「まひる野」代　表　**島田修三氏**

演　題　**『命の一秒を歌う』**

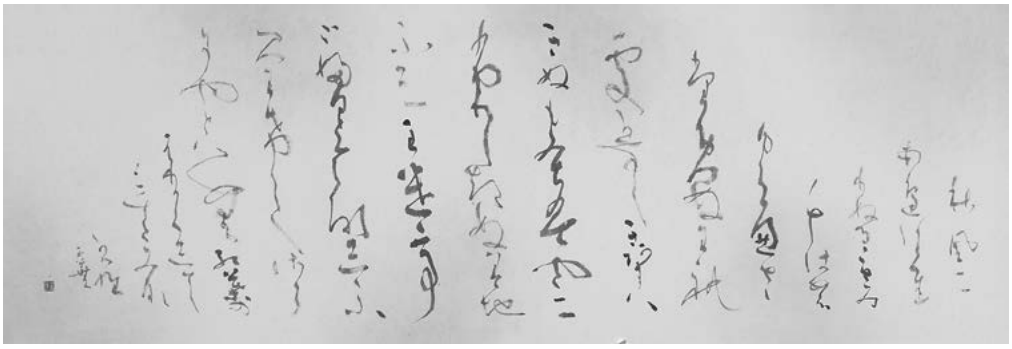
祝賀懇談会

3階「ヴェルサイユの間」

時　間　18時　より

第41回 読売書法展入賞者

〔本会会員関係分〕



読売新聞社賞（か　な）　加藤　玉華

読売新聞社賞（漢　字）　杉山　瓊川

読売新聞社賞（漢　字）　田口　勢望

読売新聞社賞

〈漢　字〉
杉山　瓊川
田口　勢望

〈か　な〉
加藤　玉華

読売俊英賞

〈漢　字〉
石川　明歩
大場　敏充
関根　玉翠
新美　秋鳳

〈か　な〉
今枝　節峰
大﨑　水愁

〈篆　刻〉
水谷　三兆

〈調和体〉
倉田　朝華

読売奨励賞

〈漢　字〉
井村　耕心
遠藤　紫聖
黒川　鵬霄
小池　玲翠
近藤　峻岳
近藤　星崖
外山　悠汀
吉田　紫翠

〈か　な〉
鏡　千裕
近藤　由果
鈴村　姫泉
松田眞理子

〈篆　刻〉
稲垣　華扇
山﨑　曲全

〈調和体〉
日比野汀華

特選

〈漢字〉
安藤　雄岳
大石　窓雪
倉知　葉舟
千田　光麗
中條　仁美
寺岡　春蘭

〈かな〉
川中永津子
倉橋　松容
橋本　富子
三浦　玉泉
吉田　裕子

〈篆刻〉
鈴木　玉晶

〈調和体〉
和井内真百合
長船　志保
加藤真由美
桑原　静光
小塚　白樹
小西　美紀
佐藤　彩柳
佐橋　美風
関谷　蒼玄
高森　良鴦
竹内　由美
中西　草城
野々村宜子
早野　春扇
日高　彩景
福山　惠山
水野　百花
宮尾　清峰
宮永　紅雅
安田　雪篁
山口　含烟
安藤　美恵
伊藤　英美
井上三保子
内田　洋子
太田　加代
大野　紀舟
大野　夏紀
加藤　光月
庄村　清泉
杉山　裕梨
田村　泉舟
田村　裕香
野澤恵美子
箕浦　和子
吉田千津枝

〈篆刻〉
大畑　豊泉
佐野　麦静
村田　惠紅

秀逸

〈漢字〉
石川　祥紅
大池　那由
大橋　由季
小掠　雄大
山口　紅鶴

〈調和体〉
伊吹　紅鳳
柄澤　信一
西脇　和子
浜島　明翠

〈かな〉
安藤　香波
横井　佳汀
渡邉　香蘭

第76回 毎日書道展入賞者

〈本会会員関係分〉

会員賞（近代詩文書）　川合　採星

会員賞

〈近代詩文書部〉
川合　採星

毎日賞

〈漢字部Ⅱ類〉
福川　翠

〈近代詩文書部〉
伊藤　和代

〈大字書部〉
橋倉　詠雪

秀作賞

〈漢字部Ⅰ類〉
長田　裕華
瀬古　麗峰

〈漢字部Ⅱ類〉
伊藤　園子

〈近代詩文書部〉
大塚　裕子
加藤　蒼琅
河合　美玲
川西　悠華
北野　春艸
久保田香穂
野田　芳樹
林　泰伯

佳作賞

〈漢字部Ⅰ類〉
太田　祥風
村上　影月

〈漢字部Ⅱ類〉
臼井　桃園
片岡　蘭泉
河村　紫夙
佐竹　得道
土川　青翠
土屋　春聲
成田　長男
真野　桃華

〈近代詩文書部〉
岡　玲風
加古　松泉
加藤　貴咲
九野　恭葩
合木　湖雪
佐藤　緑風
花田　佳子
堀部　悠華
松原　楽朋
森田　茱香

〈大字書部〉
泉　好子
水谷　剣堂

U23奨励賞

〈近代詩文書部〉
白崎　力

第118回日展審査員　鬼頭翔雲先生

識鑒（しきがん）が問われる立場で

鬼頭翔雲（第五科　会員・審査員）

第一一八回日展審査員を委嘱され、その任の重さに身の引き締まる思いをしております。

五科の入選率は毎年一割という極めて厳選であります。私は若い頃から一年は日展で始まり日展で終わるという思いで書生活をしてまいりました。年間、多くの書展で活動をしながらもその核には常に「日展作品」ということが頭から離れません。おそらくこの思いは日展出品者は誰でもそうかもしれません。その作品は日頃の弛まぬ努力と精進を集大成したものであり、正しく「心技体」つまり技法のみならず筆意の裡には鍛錬、精選された人格と生命力が宿っているといっても過言ではありません。

毎年、選外作品の中にも優れた作品があります。その違いは紙一重の差かも知れません。入選率一割の厳しさはそういう所にあるのでしょう。そして審査員の識鑒を問われるということも事実です。出品作品に最大の敬意をはらい、その任を果たしたく考えております。

（日展ニュース No.191より転載）

第118回 日展 入選者

〔本会会員関係分〕

―愛知県―

家田馨子
○松下聖心
赤堀正風
長村子鴻
堀部保子
安田雪篁
武田晶庭
鈴木香鵬
佐々木宏潤
中林景
水野佑華
若杉美香
板倉恵子
衣川彰人
清木美智子
畑裕子
岩田緑汀
草野慧泉
須田静波
水野峯翠
梶山盛涛
高桑厳風
山際雲峰
横井宏軒
石川明歩
磯谷凄聴
今田昌宏
鎌倉彩風（雅代）
小島瑞月
近藤芳玉
片岡秋華
松下英風
加藤秀慧
齋藤禹月
高島濤翠
小野田美晴
神谷緑泉
田中幸江
丹羽春蘭
村瀬俊彦
大﨑水愁
香月久遠
神谷光園
神谷采邑
福田博芳
波切童州
大池青岑
稲垣華扇
村田華泉
片山清洲
家田翠徑
○江端穂香
大木青嵐
加藤博子
永井友理
○永田美幸
上小倉積山
高木紅舟
寺尾桑林
寺本陽春
宮田洋美
清水春蘭
加藤紫雲

―岐阜県―

吉澤有岐子
青木榮俊
○柴間秀瑤
日比野妃扇
○梶田女理
林春翠
増井希
鈴木史鳳
関谷蒼玄
加藤玉華

―三重県―

鏡千裕
谷鴻風
荒木敬子
高橋華堂
山本雅月
世古口大虚
佐久美泉涯
中村翠雲
大嶋由美子
松井秀峰
渡邉香蘭
堀田花
永平巳旺子

―埼玉県―

遠藤栄久

―静岡県―

小野蹊泉

〔○印は初入選〕

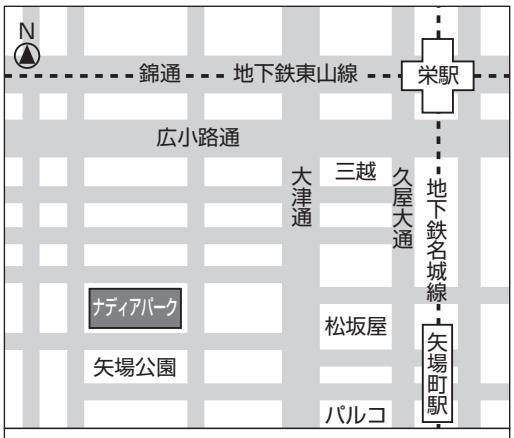
日展名古屋展は令和八年一月二十八日(水)から二月十五日(日)まで愛知県美術館ギャラリーにて開催予定

各展覧会共、記載につきましては、漏れがございましたら本部までご連絡下さい。次号に掲載させて頂きます。

第76回 中日書きぞめ展作品募集

◆会　期　令和8年3月14日(土)・15日(日)
14日(土) 午後1時～午後6時
15日(日) 午前10時～午後5時

◆会　場　ナディアパーク2F　アトリウム
名古屋市中区栄3丁目18番1号



会場へのアクセス
[電車の場合]
○名古屋市営地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車
　サカエ・チカ7・8番出口より南へ徒歩7分
○名古屋市営地下鉄名城線「矢場町」駅下車
　5・6番出口より西へ徒歩5分
[車の場合]
○名古屋高速２号東山線「白川出口」より東北へ約2km
○名古屋高速都心環状線「錦橋出口」より東南へ約2.5km
○名古屋高速都心環状線「東別院出口」より西北へ約4.5km

◆授賞式　令和8年3月15日(日) 午後2時
ナディアパーク3F　デザインホール
理事長賞以上の生徒さんに出席していただきます。

◆褒　賞　衆議院議長賞、参議院議長賞、文部科学大臣賞、
愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市長賞、
愛知・岐阜・三重各県議会議長賞、名古屋市会議長賞、
愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋市教育委員会賞、
中日書道会賞、中日新聞社賞、東海テレビ放送賞、
CBCテレビ賞（以上申請中）、
名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞、
特選、準特選、秀逸、佳作、入選
※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。
★上位作品を令和8年度中日書道展にて展示します。

◆資　格　幼年・小学生・中学生・高校生

◆出品要項　詳しい出品要項出品目録が中日書道会本部にありますので
お問い合わせ下さい。

◆課　題　自由

◆作　品　○用紙は、半切1/4縦（八ツ切）※高校生は半切縦も可
○作品は、表装しないこと。
○書体は、幼・小＝楷書、中＝楷書又は行書、高校生＝自由
○作品には、学年・氏名を必ず自書すること。
○高校生は、作品に合わせて署名・押印すること。

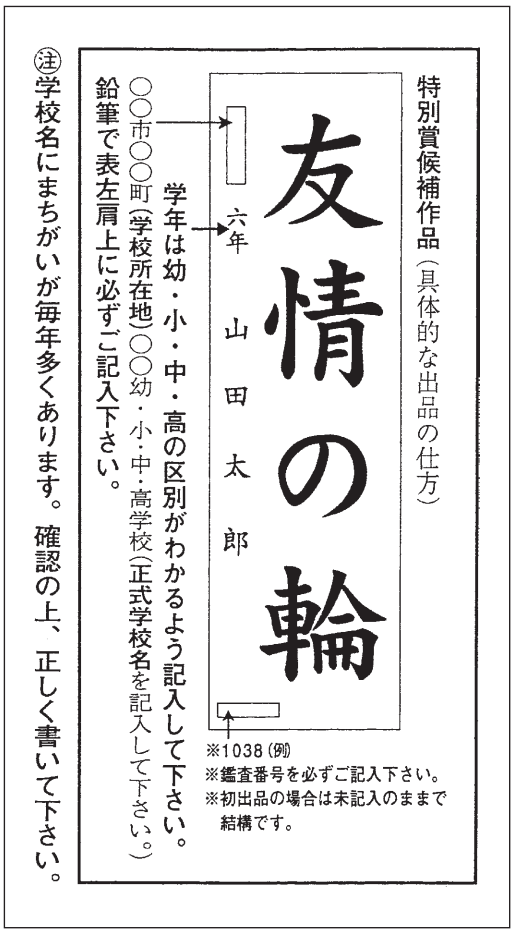
◆出品料　500円（出品は一人一点）
（個人出品者は賞品、賞状の郵送料として600円を加算して下さい。）

◆搬入締切　令和8年1月15日(木) 午前10時～午後3時
（送付される場合は14日(水)中部日本書道会本部必着でお願いします。）

◆搬入場所　公益社団法人 中部日本書道会
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号
桑山ビル8階C号室
担当　教育部長 川本大幽
TEL〈052〉583-1900　FAX〈052〉583-1910

◆取扱所

伊藤大林堂	052-776-1881	青柳堂	052-259-0313
應天堂	058-239-5200	大玄堂	058-271-2662
伽藍	052-242-7741	長楽斎筆舗	052-263-4554
菊屋商店	052-241-1145	名古屋キョー和	052-263-9401
髙誠堂	0532-52-5514	名古屋ホウコドウ	0568-89-7788
小松表具店	0568-75-0281	三重軸装	0596-27-2292
書遊 平野筆墨堂	052-854-7567		



後援　愛知県・愛知県教育委員会、岐阜県・岐阜県教育委員会、三重県・三重県教育委員会
名古屋市・名古屋市教育委員会、東海テレビ放送、CBCテレビ（申請中）

主催　公益社団法人中部日本書道会
中日新聞社

第七十五回記念　中日書道展出品案内

一、会場・会期

▼愛知芸術文化センター　愛知県美術館ギャラリー8F　A～J室

○審査顧問・常任顧問・理事・監事・顧問・参与以上の役員は**第一期・第二期**を通して二週間展示
○一科審・二科審・依嘱の作品は**第一期**に展示
○無鑑査・一科は**第二期**に展示

第一期　令和八年六月　十七日（水）～六月二十一日（日）
第二期　令和八年六月二十四日（水）～六月二十八日（日）

▼名古屋市民ギャラリー栄7・8F

○二科作品　**令和八年六月　十六日（火）～六月二十一日（日）**

●書の匠展　作家による揮毫会　――**六月二十日（土）午後一時三十分より開催**
●愛知県美術館ギャラリー　――第七十六回 中日書きぞめ展　上位作品（九十七点予定）を展示
※御長寿作品（米寿）の展示について　――米寿の作品は愛知県美術館ギャラリー8Fに第一期・第二期を通して二週間展示します。
※障害者アーツ・アールブリュット「書」を第二期にて展示します（予定）。

一、出品部門

第一部　漢　字　第二部　かな　第三部　近代詩文　第四部　少字数　第五部　篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上（平成二十三年四月一日生まれ以前）の者とする。（但し十五歳から二十五歳までの者〔平成十二年四月二日生まれから平成二十三年四月一日生まれまで〕は証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕を提出する。）

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。
（止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること）

一、授賞式

令和八年六月二十一日（日）　名古屋東急ホテル　午後三時半より（予定）

一、祝賀会

令和八年六月二十一日（日）　名古屋東急ホテル　午後六時より（予定）

一、入場料

三〇〇円（小・中・高校生は無料）、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱店がいたしますので、出品者は事前に取扱店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは**四月十三日（月）**までとさせていただきます。
中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意下さい。

※正会員（展覧会役員及び一科会員）の年会費も、取扱店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他

ご不明な点は二月末にお届けします事務分掌でご確認ください

第七十五回記念　中日書道展作品展示会場および会期

	名古屋市民ギャラリー栄７・８Ｆ	愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー８Ｆ（Ａ～Ｊ室）		
		第二期	第一期	第一期・第二期
	二科※2	無鑑査一科※3	依嘱 一科審査会員 二科審査会員※1	審査顧問・常任顧問・理事・監事・顧問・参与 以上の作品※2
6/16（火）				
17（水）				
18（木）				
19（金）				
20（土）				
21（日）				
22（月）				
23（火）				
24（水）				
25（木）				
26（金）				
27（土）				
28（日）				
	10:00~18:00 ※最終日は16:30まで	10:00~18:00 ※21日(日)は15:30まで 最終日は16:00まで		

※１　書の匠展 作家による揮毫会―六月二十日（土）午後一時三十分より開催します。

※２　御長寿作品（米寿）の展示について―愛知県美術館ギャラリー８Ｆに展示。（第一期・第二期の二週間展示）

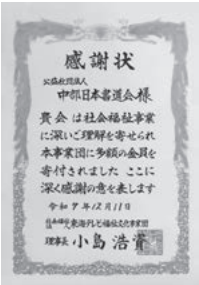
※３　障害者アーツ・アールブリュット「書」は第二期に展示します（予定）。

会員の皆様の温かいお心に感謝いたします。

2025年 チャリティー愛の募金

中日新聞社会事業団に120万円寄託
東海テレビ福祉文化事業団に100万円寄託
各支部より中日新聞支局・通信局に 80万円寄託

左より 中日新聞社会事業団理事長 林寛子様と松下理事長、山本・梶山・後藤副理事長、佐野事務局長



感謝状

公益社団法人
中部日本書道会様

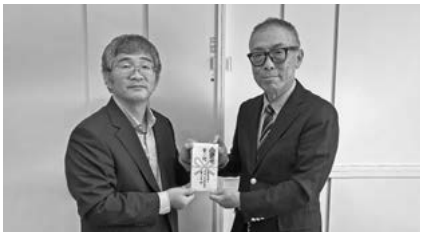
貴会は社会福祉事業に深いご理解を寄せられ本事業団に多額の金員を寄付されました ここに深く感謝の意を表します

令和7年12月1日
社会福祉法人中日新聞社会事業団
理事長 小島浩壽

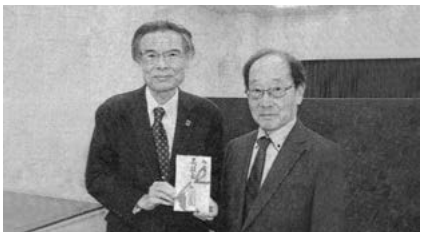
募金参加者ご芳名

神田 真秋
佐野 翠峰
鈴木 立齋
高木 玄齊
中林 景
柘 英峰
長谷川 鸞卿
馬場 紀行
原田 凍谷
広井 秀琳
廣澤 凌舟
古川 昇史
丸山 聖峰
水野 峯翠
山中 桂山
川本 大幽
村上 史麗
樽本 樹邨
松永 清石
横井 宏軒
近藤 浩乎
早川 泰山
山際 雲峰
夕葉
安藤 滴水
鬼頭 翔雲
梶山 盛涛
松下 英風
後藤 啓太
山本 雅月
天野 白雲
磯谷 凄聰
伊藤 小游
岩田 潤流
内田 翠径
大池 青岑
大木 青嵐
尾嵜 紫光
加藤 矢舟
上小倉 積山
神谷 光園
川合 玄鳳
衣川 彰人
安藤 昌子
伊藤 夏舟
伊藤 仙游
岡野 楠亭
梶山 夏舟
加藤 子華
加藤 裕
黒田 玄夏
後藤 汀鶯
杉江 秀城
杉坂 育子
鈴木 瑞象
稗田 美苑
片岡 秋華
相崎 紫憬
相川 千涯
青木 榮俊
青山 華塘
赤堀 正風
秋松 秀玲
浅井 径桜
浅井 紅鶴
浅井 紫泉
浅井 紫峰
浅井 祥舟
浅井 明奈
朝井 美玲
浅野 芳柳
浅野 揺草
朝比奈 祥鳳
足立 麗華
阿部 舟花
天野 月清
天野 梢華
新井 ひろ子
荒川 清香
荒川 璃華
荒木 素園
荒木 友梅
安藤 佳舟
安藤 清香
安藤 蘇道
安藤 静歩
安藤 範香
飯田 瑤華
飯田 泰郷
家田 馨子
猪飼 閑雲
生田 浪華
池上 創
伊佐治 祥雲
石井 小湖
石井 瑞鶴
石上 桃李
石川 加翠
石川 瑞祥
石川 瑞峰
石川 明歩
石黒 直子
石黒 柏葉
石澤 玉翠
石田 西華
石田 三喜
石塚 美根子
石原 清至
石原 聲風
泉 好子
磯貝 弘子
板倉 恵子
市川 嶺華
伊藤 綾華
伊藤 鳳珠
伊藤 和代
伊藤 杏華
伊藤 恭子
伊藤 玉冰
伊藤 吟雪
伊藤 谿石
伊藤 紅玉
伊藤 紅彩
伊藤 紅樹
伊藤 虹川
伊藤 江麗
伊藤 春瑶
伊藤 昌園
伊藤 昌郷
伊藤 新川
伊藤 真葉
伊藤 翠香
伊藤 翠芳
伊藤 静雅
伊藤 静香
伊藤 草華
伊藤 美扇
伊藤 美泉
伊藤 文惠
伊藤 芳華
伊藤 芳香
伊藤 蘭径
伊藤 蘭香
伊奈 美峰
稲垣 輝彩
稲垣 紅春
稲垣 竹径
犬塚 玉陽
井野 華水
井上 香苑
井上 紫水
井上 貴文
井深 春扇
今井 恭子
今井 桃丘
今村 寿鴻
井村 耕心
入谷 霞流
岩井 榮華
岩城 みつ代
岩崎 玉楊
岩瀬 臘月
岩田 展穂
岩田 緑汀
上野 明美
上前 総子
上松 晨陽
鶏飼 能勢
宇佐美 匠香
内川 昌子
内出 紅華
内本 久園
内山 雅舟
内山 紫泉
梅田 楊華
梅村 彩香
江川 翠苑
江口 大濤
遠藤 紫聖
塩谷 秀蘭
鏡 千裕
小野田 晃志
小野田 景月
尾之内 柳雪
小野 蹊泉
落合 玉泉
尾関 楊花
小澤 佳路
長村 子鴻
長田 裕華
河田 聖翠
川出 泉麗
河原崎 坡青
河村 喜汀
川本 赫汀
神田 閑秀
神田 醉月
木澤 麗川
木島 静月
後藤 松烟
後藤 幽泉
後藤 春洋
古塚 璃幸
小島 泰子
小島 初美
小嶋 千翠
小島 雪舟
小島 瑞香
小島 瑞月
柴田 桃花
柴間 秀瑤
澁谷 鳴風
志水 玉華
清水 好流
清水 春蘭
清水 澄園
志村 舟泉
志村 松琴
志村 峯遠
後藤 幽泉
小林 玉芙
小林 霞月
小林 恵風
小林 祥鶴
小林 雅子
小松 翠篁
近藤 翠嶺
近藤 青洮
近藤 延子
近藤 芳玉
近藤 由果
近藤 紀枝
近藤 由紀
熊崎 北咏
倉内 秀佳
倉科 清怜
齋藤 禹月
斎藤 矧川
杉本 扇鈴
杉江 花城
杉浦 仁美
杉浦 琇鈴
杉浦 薫水
杉浦 悦子
高橋 華堂
高橋 花柊
高橋 竹香
高橋 栖雲
高橋 寿香
土屋 春聲
土屋 香風
土川 青翠
築山 みなみ
都築 心扇
都筑 聖園
堤 光星
坪井 英哲
坪井 白汀
勅使河原 恵翠
寺尾 桑林
寺岡 春蘭
寺本 陽春
土屋 香苑
戸田 青楓
戸崎 翠虹
戸松 紅翠
戸松 香苑
富田 蘭月
富永 飛燕
外山 悠汀
鳥居 竹泉
鳥居 柳城
中井 春翠
中井 静景
永井 青楓
永井 港星
永井 友理
田中 修文
田中 春華
田中 祥雲
田中 尚秀
田中 千翠
田中 美香
谷 谷利
谷口 琇苑
谷口 大観
玉樹 栄香
田村 泉舟
千葉 晨翠
中条 彰山
千葉 弘子
田村 紅舟
田村 光風
高木 紫光
高木 愛子
高井 東里
高井 香園
平 冨耀
祖父江 佳扇
千田 京華
仙石 祥香
世古口 大虚
世古口 玉扇
瀬古 麗峰
関谷 蒼玄
高桑 嚴風
高島 濤翠
高瀬 清恵
高橋 花柊
高橋 華堂
高橋 寿香
高橋 栖雲
高橋 竹香
高松 彩月
高松 秀翠
高滝 白峰
田口 勢望
竹内 紫燕
竹内 清泉
竹内 友康
竹内 梅泉
竹田 景汀
竹田 由美
武田 優璽
武野 桂華
武山 春陽
田島 不染
田代 青穂
田中 青崩
田中 鶴汀
田中 桜花
田中 溪石
帯刀 楯
田中 芳琴
田中 光穂
田中 幸江
田中 修文
田中 春華
田中 祥雲
田中 尚秀
田中 千翠
田中 美香
田中 千翠
谷 鴻風
谷利 紫鳳
谷口 琇苑
谷口 大観
玉樹 栄香
田村 泉舟
千葉 晨翠
中条 彰山
千葉 弘子
田村 紅舟
田村 光風
高木 紫光
高木 愛子
高井 東里
高井 香園
平 冨耀
祖父江 佳扇
千田 京華
仙石 祥香
世古口 大虚
世古口 玉扇
瀬古 麗峰
関谷 蒼玄
高桑 嚴風
高島 濤翠
高瀬 清恵
高橋 花柊
高橋 華堂
高橋 寿香
高橋 栖雲
高橋 竹香
高松 彩月
高松 秀翠
高滝 白峰
田口 勢望
竹内 紫燕
竹内 清泉
竹内 友康
竹内 梅泉
竹田 景汀
竹田 由美
武田 優璽
武野 桂華
武山 春陽
田島 不染
田代 青穂
田中 青崩
田中 鶴汀
田中 桜花
田中 溪石
帯刀 楯
田中 芳琴
田中 光穂
田中 幸江
田中 修文
田中 春華
田中 祥雲
田中 尚秀
田中 千翠
田中 美香
田中 千翠
谷 谷利
谷口 琇苑
谷口 大観
玉樹 栄香
田村 泉舟
千葉 晨翠
中条 彰山
千葉 弘子
田村 紅舟
田村 光風
高木 紫光
高木 愛子
高井 東里
高井 香園
平 冨耀
祖父江 佳扇
千田 京華
仙石 祥香
世古口 大虚
世古口 玉扇
瀬古 麗峰
関谷 蒼玄
高桑 嚴風
高島 濤翠
高瀬 清恵
高橋 花柊
高橋 華堂
高橋 寿香
高橋 栖雲
高橋 竹香
高松 彩月
高松 秀翠
高滝 白峰
田口 勢望
竹内 紫燕
竹内 清泉
竹内 友康
竹内 梅泉
竹田 景汀
竹田 由美
武田 優璽
武野 桂華
武山 春陽
田島 不染
田代 青穂
田中 青崩
田中 鶴汀
田中 桜花
田中 溪石
帯刀 楯
田中 芳琴
田中 光穂
田中 幸江
田中 修文
田中 春華
田中 祥雲
田中 尚秀
田中 千翠
田中 美香
田中 千翠

〈一宮支部〉吉田桃花、牧仙岳両支部次長

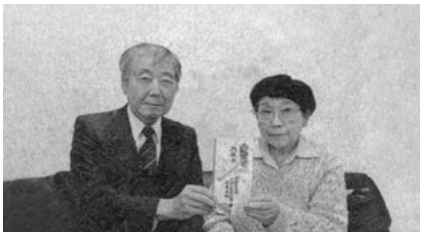


〈半田支部〉杉江花城支部長



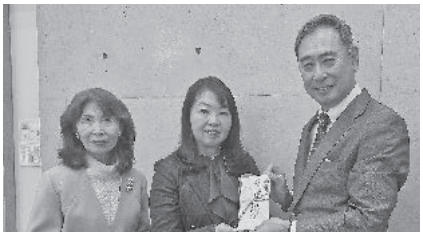
〈西三河支部〉加藤矢舟支部長と磯谷凄聴次長

〈東三河支部〉皆川嗣恵支部長と深井尚子次長



〈濃飛支部〉堀梅肇支部長と中垣幸聲次長

〈北勢支部〉荒木友梅支部長と高橋華堂次長



〈中南勢支部〉　堀田花支部長と岡幸秀広報

長尾秀麗
中川貴舟
中川瑞玉
中川星光
長崎成秀
長島佳伯
永瀬珠香
永田美幸
永谷恵子
中西笙月
中西草城
永平巳旺子
仲村春水
中村清園
中村翠雲
中村青煽
中村曽南
中村竹童
長屋天虹
中山芳泉
成田尚子
新美秋鳳
新美珠光
西垣美茜
西垣梨雪
西田康華
西村松花
西脇和子
西脇聖園
仁田脇京華
丹羽春蘭
丹羽清郷
丹羽茜麗
丹羽峰仙
丹羽藍水
根津郷巴
根谷捷子
野杁怜光
野口紀代子
野田はる美
野田虹園
野田佳楊
野口志園
根津郷巴
根谷捷子
野杁怜光
野口紀代子
野田はる美
野々村宜子
野村晩峰
野村清涼
野村揚月
則武穹
萩野琴苑
萩原祐子
橋詰桃邨
羽柴苔谷
橋本成良
長谷川華香
長谷川眞山
秦雪暎
畑裕子
羽田野江楓
服部春逕
服部美枝子
花井清水
羽根寿子
浜野春瑛
早川和子
早川緑園
林華香
林華泉
林紫香
林春翠
林大樹
林天翔
林由美
林虎峰
原田圭竹
原田清尚
原賀瑞芳
坂九瑢
半田博子
阪野小波
坂野渚月
坂野竹童
日江井芝香
日高彩景
日比野寿翠
日比野妃扇
平井三千代
平岩美風
平賀秀園
平野公鶴
平野公慎
平野芳碩
平松圭鳳
平松心華
深井尚子
深田芳香
深津洋子
深谷恵庭
深谷紅蘭
福岡林泉
福島有何
福田徑揚
福谷紅華
藤井和彦
藤井秀堂
藤田寒樹
藤田金治
藤村真徳
藤原清泉
古川花渓
古川侃司
古田秀紅
古田祥扇
堀田花
堀穂慧
堀梅肇
堀部保子
堀部悠華
本田吉華
本田煌雲
前田千登世
牧仙岳
増田春暉
増田蘭苑
松井秀麗
松井香代子
松居光子
松岡瓊玉
松崎朱實
松崎青漣
松佐古渓水
松澤昂永
松下聖心
松田鶴鵬
松田樹幹
松田穂嬋
松田典子
松野下華清
松元彩華
三浦景波
見神恵峰
三上啓鳳
美希昌風
三代雄峯
水田珪華
水田美泉
水谷玉汀
水野清花
水野美保子
溝口子静
溝口純華
溝口大河
溝口渺然
光澤閑石
三橋紅月
皆川嗣恵
美濃羽城開
宮希蓉
宮崎弘園
宮田清風
宮田洋美
宮崎富山
宮田彩霞
吉川清軒
吉兼理樹
横井静嘉
弛舟紅
三枝史鳳
山脇有華
山田蹋雲
山田紅照
山田杏華
山田富泉
森絹泉
森翠葉
森清葉
森冬華
森政子
森隆城
森久美
森藍麗
森下守永
八木彩花
矢島潮香
安田翠嵐
安田雪篁
矢田紀香
矢田部琴舟
山内香霖
山内窓楓
山川昌泉
山川孝子
山岸邦山
山口蕙世
山口紅鶴
山口如泉
山口竹汀
山口裕子
山口幸子
山口律舟
山崎曲全
山崎紅影
山崎富泉
渡辺悠記子
相崎実桜
青山佳白
朝居華緒
浅井柚衣
浅川都鸞
東瑶琴
阿部光泉
天野博子
荒木桃花
安藤秀苑
安藤香波
安藤荘子
安藤春翠
安藤紫鳳
安藤鴻仁
安藤惠子
安藤英美
安藤文野
安藤純子
安藤一柳
市川兼正
板倉虹華
板倉香淵
伊吹紅鳳
井本千游
岩瀬祥苑
岩田永慎
岩田香翠
岩場恵子
岩本麗泉
上嶌杏苑
上田馨星
上村寿子
鶏飼水影
牛田光星
臼井桃園
内田皐月
内田洋子
打田るり子
宇都野美代子
宇野央子
梅村香園
江口幽岳
榎田瓊翠
榎本翠峰
江端穂香
大鐘智芙未
大久保春鼎
大河内淳風
大石窓雪
大村瑞苑
大矢大月
岡幸秀
岡崎真理
岡田和恵
岡田てつみ
岡田洋美
岡田容子
岡田義明
岡本裕鼎
小川敦子
小川順子
小川真由美
小川蕗桜
荻野玉堂
奥田桃里
奥村恵美子
大田さやか
太田紫紅
太田翠香
太田美楓
大嶽旭華
大谷蕙苑
大谷祥雨
大塚菖苑
大西影慕
大野琴舟
大野紀舟
大林霞風
大平貴子
大村瑞苑
春日井静月
梶谷まち子
梶川美穂子
笠松紫芳
鬼塚佳香
落合八代栄
小田哲廣
押田納村
尾崎翠玉
尾関賀妙
尾関明美
押田白蓬
小倉壽子
小掠雄大
尾崎涼舟
奥山八重子
加藤桃径
加藤眉翠
加藤浩子
加藤北辰
加藤柚香
加藤由美子
上ヶ平香川
上小倉由美
神谷芳翠
河合秀苑
川北博子
川口和子
川口芳雲
川瀬実咲
河村一雄
河村紫夙
川本青柊
神田真珠
神戸春谷
神戸笙詩
岸川天翠
木島美翔
北堀華暎
北村玉風
木野瀬陽光
木村和象
杏名香花
杏名典子
久野生麗
久野哲仙
久保田香穂
熊崎香苑
久米水聲
栗山幽香
小出和香
甲谷千樹
鴻巣玉兎
小坂仁子
小島華扇
小島湖山
小塚白樹
後藤美川
後藤蘭徑
小西美紀
小早川恵祥
小林明美
小松月泉
小牟禮優美英
古家野弥生
小山峯雲
近藤綵春
近藤碧霄
近藤嘉江
佐伯恭華
榊原観峰

坂口　丹華
阪田　華香
桜井　花淞
佐々木映雪
笹本　菜月
笹山万喜子
佐藤　恵順
佐藤　幸泉
佐藤　紅蘭
佐藤　彩柳
佐藤　青葩
佐藤　敬顕
佐藤　桃華
佐藤　幽水
佐橋　爽翠
佐橋　美風
澤里起与古
三野美恵子
塩野谷厚志
志津野穂夏
篠原　久祥
柴田惠美子
柴田　恵子
澁谷　弘峯
島戸　香蘭
清水　水僊
清水　由美
志村　玲香
庄司　梨陽
庄野　照香
白井　孝心
白川　眞弓
陣内　華苑
杉浦　幸子
杉浦　純子
杉浦　芳純
杉田　樹石
杉本　和代
杉本　錦楊
杉山　恵子
杉山千鶴子
杉山　洋子
鈴木　和代
鈴木　京子
鈴木　玉晶
鈴木　恵雅
鈴木　香葉
鈴木　夏代
鈴木　誠人
鈴村　姫泉
須田　白城
瀬邉　風馬
千田　光麗
曽根　精華
高木　啓志
高津　朱美
高槻　和子
高橋　薫麗
高橋　翠葉
高橋千代子
高橋　美華
高橋　麗水
滝本　柳烟
竹内　深風
竹下　正樹
武田　芳雨
田澤　扇華
田中　彩鵬
棚橋　紅蘭
谷　順子
谷川　花影
谷口貴代子
玉田　桃苑
土本　珠星
角田登美子
坪井　揖溪
坪山　香泉
寺島　明子
寺嶋　祥香
土井　秀栖
遠山　翔雅
遠山　正幸
遠山　柳恵
栂野　春美
徳倉　江舟
冨田　朝煙
豊田　霞汀
鳥居　柳清
長江　毬華
長尾　珠泉
中川　春光
中川　美翠
中川　玲波
長澤　美峰
中島　千里
中島　玲子
永田　彩乃
永田　正毅
中西　伸江
中西　真尋
長野　輝泉
中野　滋
中野　紫泉
中野　聲石
中野　和陽
長畑　清楓
中村　彩香
中村智恵子
夏目　美沙
鳴川　翠月
成瀬　伸芳
新津　美泉
西川　樹顕
西川　允子
西山　孝子
蜷川　紫石
丹羽　毫代
丹羽　紅翠
丹羽　白桜
丹羽　碧洋
二和田通代
野澤恵美子
野尻　紀子
野田　翠香
野々垣煌玉
野々川翠扇
野村　貞美
野村　繁子
野呂　竹泰
羽実　祥鳳
長谷川春汀
長谷川瑞鳳
服部　紫翠
服部　稲華
服部　麗泉
花井明日美
花井　麦雲
林　溪舟
林　皓月
林　尚志
林　翠竹
林　柏亭
林　春扇
早野　香風
原　由美子
原田　霞汀
坂　幸瑩
半田　京
坂野　桃香
半谷　恵風
日置　康苑
飛田　泰仙
等　綾雪
日比野弘心
平井　祐里
平川　彩舟
平澤　雲香
平林津賀子
平松　明子
平松　和子
広浦　須寿
廣瀬　芳雲
深谷祐加里
福島　翠苑
福原　秋冷
福森　逢年
福山　恵山
藤村　瓊香
藤本　佳扇
藤原　紫光
舟橋　風苑
古橋　紀風
古橋　勝櫻
古橋　葉子
星野　仙燁
星野　律花
細川　柳舫
堀田　勢津
堀　英翠
穂積　清華
洞　清渓
堀内　梓未
本多　蘭香
前野　秋豊
牧野　瑞風
増井　希
町田　清芳
松浦　華峰
松崎理恵子
松田　玉芳
松田眞理子
松永　紫豊
松野　悦子
松原　楽朋
松原　信子
松本　春楊
三浦　巌芳
三浦　玉泉
三浦　節子
右高　衆山
御崎　勲城
三沢　桃紅
水越　鈴雪
水谷サト子
水谷　鳳月
水谷　峯文
溝口　紗世
溝口　春華
南谷　流泉
美濃部　純
宮尾　清峰
宮田　昭子
宮地八千代
宮永　紅雅
宮部政代美
三輪　彩光
村上　泉酔
村上　史子
村上　庸子
村瀬　鶴翠
村瀬　紫苑
村田　惠紅
村田美保子
森　則子
森川　峻翠
森下　千翠
森下　美影
矢島　汐風
安田　春麗
安田　由琳
八谷　白仙
梁川　美舟
柳澤　孝子
柳瀬　緑風
矢野　榮里
山内　清華
山川　桂花
山川　節子
山口　晶子
山口　光華
山崎　春枝
山田　和子
山田　光芳
山田　西寧
山田　真如
山田　隆久
山田　弘子
山田　陽水
山本　双剣
山本　瑶華
万木　桃風
余語　春美
横井　霞光
横江　昌峰
吉川　珠翠
吉川　桃香
吉川　抱雲
吉田　鏡華
吉原　清華
吉村真由美
米津　美華
若松　翠泉
若山　芝春
鷲野　春翠
鷲野　嘉子
渡邉　湖夕
渡辺　春燕
渡會　祥雲

（十二月十日現在）

〈岐阜支部〉鈴木蘭峰支部長と森本夏溪次長

中部日本書道会は12月10日と11日に年末助け合い運動の義援金として、中日新聞社会事業団に120万円、東海テレビ福祉文化事業団に100万円を、各支部は中日新聞各支局・通信局に10万円を寄託した。

支部だより（令和七年度上半期）

上半期の行事には、支部全面協力体制で参加を致しました。多くの方に展覧会を見に来ていただける様に招待状を作成し、子供たちから学校の先生や友達等に案内をしていただきました。恒例のうちわ書きイベントも大盛況でした。また、今回は記念撮影用の背景（大きな賞状）を作成したことで、多くの皆さんに記念写真を撮っていただけ、父兄の方にも大好評でした。

一宮支部

◉第一回部長会

日　時　四月十三日(日)
会　場　一宮スポーツ文化センター
出席者　十六名

◉第二回部長会

日　時　六月一日(日)
会　場　スポーツ文化センター
出席者　十四名

◉支部報発行（第五十四号）

七月一日

◉第五十二回七夕まつり学生書道展

出品数　二、七七二点

◉第三十一回選抜作品展（役員・指導者の小作品展）

出品数　一〇三点
会　期　七月十二日(土)、十三日(日)
会　場　一宮スポーツ文化センター
来場者数　一、六〇〇名

◉第三回部長会

日　時　八月十七日(日)
会　場　真清田神社参集殿
出席者　部長会十六名

賞状風背景フォトスポット

選抜作品展

うちわ書きイベント

七夕まつり学生書道展

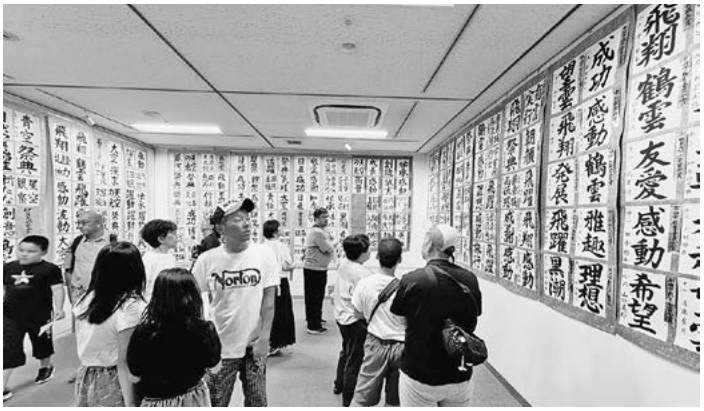
半田支部

◉第二回半田支部学生展

会　期　七月二十日～二十一日
会　場　半田市福祉文化会館

前回より出品数（一、四三九点）も増え、夏休みのスタートということも重なり、初日から多数の入場者を迎えることができました。書塾先生方のご指導と出品者ご家族の関心が大きかったものと感謝しております。将来を担う子供たちの励みや活躍・発表の場となることを願い、今後も役割を果たしていきたいと思います。

【中日新聞掲載、ＣＡＣ放映】



学生展風景

◉第十回公開書道研修会

日　時　八月十七日
会　場　半田市福祉文化会館
受講者　二十名

講師として大池青岑先生をお招きし、「隋・唐 楷書を書こう！」と題してご指導をいただきました。講義は中国の隋・唐を中心とした歴史から始まり、初唐の三大家の三大傑作を中心に、それぞれの筆法をご指導いただきました。

学生展授賞式

西三河支部

◉支部研究会

日　時　三月十六日（日）
会　場　へきしんギャラクシープラザ
参加者　五十七名

日頃から、各自研鑽している作品を、支部当番審査員及び役員の先生方のご指導を仰ぎ、有意義な作品研究会となりました。

支部研究会　（３月16日）

◉第五十八回学生書道展

会　期　七月四日（金）～六日（日）
会　場　岡崎市美術館
出品点数　三、三四六点（うち高校生 二六七点）
入場者数　一、〇六四名

学生書道展は、毎年テーマを決めて開催しており、本年度は「空」としました。事務局員の高齢化と減少にともない各作業の負担等を鑑み、展示作品は特別賞（20％）以上と高校生（全出品者）としました。

（課題）幼　とり　一年　くも
二年　はれ　三年　天上　四年　月光
五年　明星　六年　太陽　中一　銀河
中二　空路　中三　快晴　高校　宇宙科学

また、展示会場には作品に加え、審査風景や貼付作業、陳列作業の様子がわかる写真を掲示したことで、参観者から学生書道展への一層のご理解をいただくことができたかと思います。なお、次年度は全出品作品を展示する計画案を作成しています。

学生書道展　審査風景　（６月１日）

学生書道展　会場風景　（７月６日）

東三河支部

◉東三河支部展

会　期　七月八日(火)～七月十三日(日)
会　場　豊橋市美術博物館　第三展示室
出品者　支部所属会員
出品点数　九十点（賛助出品含む）

本部から松下英風理事長、梶山盛涛副理事長、後藤啓太副理事長、山本雅月副理事長、四名の先生方に賛助出品していただき、第四十八回東三河支部展を開催しました。

諸先生方、多くのお客様にご来場いただき、温かい励ましやご指導を賜り、盛会のうちに終えることができました。

東三河支部展

◉講演会

日　時　七月十二日(土)　午後三時半
会　場　ロワジールホテル豊橋
講　師　(公社)中部日本書道会
　　理事長　松下英風先生
演　題　「私の書」

講師の松下英風先生は、現在、日展会友、書美術振興会評議員、読売書法会常任理事企画委員、中部日本書道会理事長、大知会副理事長、興文会会長、有限会会長を務めてみえます。

本講演では、先生の筆遣い、起筆の角度と始筆の点から円運動そして線への流れ等、図解を交えてわかりやすくお話されました。また、命毛の大切さを再認識しました。

その後、揮毫もしていただき、間近で先生の筆遣いを耳と目で学ぶことができました。

講演会

◉会員集会

七月十二日(土)、本部から松下英風理事長、山本雅月副理事長のご臨席を賜り、令和七年度東三河支部会員集会を開催いたしました。令和六年度事業報告ならびに令和七年度事業計画、令和六年度収支決算及び令和七年度収支予算案が報告されました。

その後、第七十四回中日書道展受賞者が紹介され、会員一同盛大な拍手でお祝いし、会員集会を無事終えることができました。

会員集会

濃飛支部

◉第三十九回濃飛支部展開催

会　場　恵那文化センター
　　一階展示室
　　八月一日
　　搬入　展示
　　八月三日
　　展示　搬出　片付
来場者　一六〇名
後　援　恵那市
　　恵那市教育委員会
　　中日新聞
賛助出品　本部役員
　　松下英風理事長
　　後藤啓太副理事長
　　山本雅月副理事長
　　梶山盛涛副理事長

中部日本書道会
支部会員ら力作
恵那できょうまで

中部日本書道会濃飛支部の作品展（中日新聞社後援）が3日まで、恵那市長島町の恵那文化センターで開かれている。

東濃地域や下呂市の支部会員と書道会本部役員の計13人が23点を展示。名古屋市で開かれた公募展「中日書道展」の出品作が中心だ。

漢字やかな、篆刻、水墨などバラエティー豊かな作品が並び、担当者は「多彩な書の魅力を感じて」と来場を呼びかけている。

（石川才子）

多彩な作品が並ぶ会場＝恵那市長島町の恵那文化センターで

中日新聞　令和7年8月3日号より転載

◉支部集会

会　場　恵那文化センター一階会議室
松下英風理事長　御臨席
佐野翠峰事務局長　御臨席
出席者　十七名

◉懇親会

会　場　美濃照寿庵
出席者　九名

濃飛支部展

北勢支部

◉第三十八回北勢支部展
会　期　七月十一日(金)～十三日(日)
会　場　四日市市文化会館
　　第一展示室ＣＤ
出品総数　九十五点
入場者数　約六〇〇人

北勢支部展

力作が並ぶ会場＝四日市市文化会館で

短歌の折り本など
会員らの力作並ぶ

中部日本書道会支部の作品展（中日新聞社後援）が、四日市市文化会館で開かれている。13日まで。

中部日本書道会北勢支部

支部員ら95人が1点ずつ出展。赤い台紙に力強く「虹」と書いた作品や、繊細な仮名文字で百人一首の短歌をしたため折り本や巻物、「大象無形」と刻んだ朱色の篆刻など、さまざまな方法で表現された作品が並ぶ。

13日午後2時からは三重大の林朝子教授による「教員養成からみた小中学校書写指導の現状と課題」と題した講演会もある。

荒木友梅支部長(64)は「漢字の造形の素晴らしさや筆や紙によって変わる文字の表情を見てほしい」と呼びかけた。午前10時～午後5時（最終日は午後3時半まで）。（蟲野乃子）

中日新聞　令和７年７月12日朝刊より転載

二月の講習会でミニ屏風を作成し、そこに自分の書いた書を飾ったことで、バラエティ豊かで華やかな作品を展示することができた。

◉支部集会
日　時　七月十三日(日)
会　場　四日市市文化会館第三ホール
出席者　四十名

◉講演会
講　師　三重大学教授　林　朝子先生
演　題　「教員養成からみた小中学校
　　書写指導の現状と課題」
出席者　六十二名
普段子供を指導する時の悩みの解決や指導の指針を確認することができた。

講演会

岐阜支部

◉支部事務局会議
部長以上（各事業の検討）
四月八日(火)　五月二十三日(金)
七月二日(水)　七月三十日(水)
八月十九日(火)

◉支部集会・祝賀懇談会
日　時　七月十三日(日)　十一時半
会　場　岐阜キャッスルイン
参加者　四十五名

支部集会

祝賀懇談会

ご来賓に松下英風理事長、廣澤凌舟庶務部長をお迎えし、令和六年度事業・収支決算、令和七年度事業計画・収支予算の報告、新役員の紹介後、祝賀懇談会。

◉第三十回記念岐阜支部展
会　期　九月二十六日(金)
　　～二十八日(日)
会　場　ぎふしんフォーラム
理事長・副理事長の玉作四点の賛助出品と、会員・会員外の作品まで二〇二点を展示。

白と黒の調和に注目
中部日本書道会
きょうから支部展

中部日本書道会の第30回岐阜支部展（中日新聞社後援）が26～28日、岐阜市美江寺町のぎふしんフォーラム（岐阜市民会館）で開かれる。入場無料。

学生から90代の会員ら約200人が出品。漢詩を力強くしたためたり、仮名交じりの柔らかい筆致で和歌を記したりした書、篆刻など幅広い作品が並ぶ。

支部次長の早川修さん(78)は「紙の白と墨の黒のバランスに注目し、作品全体を絵画的な観点で見てもらえれば」と話す。

第30回の節目を記念し、28日午後1時からは席上揮毫が催される。常任顧問の安藤秀川さんら6人が観客の前で書をしたためる。28日の展示は正午まで。（石井豪）

会員らの力作が並ぶ会場＝岐阜市美江寺町のぎふしんフォーラムで

中日新聞令和７年９月26日号より転載

◉書道研修会「席上揮毫会」
日　時　九月二十八日(日)　十三時
会　場　ぎふしんフォーラム
参加者　一一〇名

役員六名による席上揮毫と松下英風理事長の特別揮毫で大感激、大盛況で終了した。

岐阜支部展

研修会

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。（左記参照）

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。

ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

記

○書道教室推薦証等交付申請書　一通
（申請書は本部へご請求下さい）
○推薦証（別記）
○推薦看板（写真）
○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。
○申込資格
本会正会員及び
選考会で認められた準会員
○推薦手数料　二七、〇〇〇円
（承認後ご連絡いたしますので振替用紙にてお振込み下さい。）
担当　教育部

公益社団法人
中部日本書道会推薦教室
第●●●号
指導者●●●●

推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

年　月　日
公益財団法人中部日本書道会
第　号

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

令和　年　月　日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者　住所
氏名（姓名）　㊞
（電話番号　－　－　）

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名			
教室住所	〒		
ふりがな			
指導者名（申請者名）		中日書道展資格	
備考			

（注）指導者の書歴は裏面のとおりです

受付年月日　令和　年　月　日
交付年月日　令和　年　月　日
交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

訂正とお詫び

第216号掲載の中日書きぞめ展作品募集案内で個人出品者は賞品・賞状の郵送料として300円を加算して下さいと誤って記載しました。正しくは郵送料として600円を加算して下さいに訂正致します。

訃報（厚生部）

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。

○10月11日　評議員　藤原郁代氏　享年82
○11月12日　評議員　桜井光雲氏　享年82
ご母堂　櫻井雅子様

（12月11日までの到着分）

事後報告
○2月20日　評議員　中川麗香氏　享年88

会費未納の方にお願い

年度末も間近となってまいりました。
令和7年度年会費及び前年度までの未納金の有る方は多年度の請求となりますが、一括の納入をお願い致します。
本部会員は、郵便振替　００８９０－６－１４４２０。
支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等
変更事項は本部までご一報下さい。
０５２（５８３）１９００

社中展・個展のご案内

（十二月十日までの到着分）

○第40回　新春玉信小品展（会長　天野白雲）
会　期　令和八年一月二十日(火)～一月二十五日(日)
会　場　名古屋市民ギャラリー栄　７Ｆ

○２０２６　春墨會小品書展（会長　馬場紀行）
会　期　令和八年二月六日(金)～二月八日(日)
会　場　青柳堂栄ギャラリー

○第46回　墨友会書作展（会長　加藤子華）
会　期　令和八年三月二十七日(金)～三月二十九日(日)
会　場　四日市市立博物館　４Ｆ

本会会員による書展のご案内を会報及びＨＰにて掲載させていただきます。会報掲載には、展覧会案内原稿、ＨＰ掲載には展覧会案内ハガキをお送りください。尚、展覧会原稿及びハガキは、**必ず封書にて**お送りください。次号掲載は、五月中旬～十月初旬開催の展覧会となります。お申し込みは、三月二十日までに本部へお願いします。（編集部）

中南勢支部の「支部だより」は行事開催の日程の都合上、次号No.218に掲載させて頂きます。

あとがき

明けましておめでとうございます。令和8年中日会報1月号をお届け致します。

◆本号から「個展拝見」と銘打って常任顧問以上の先生の個展開催の模様をお伝えすることになりました。個展はその先生の世界感が堪能でき、来場した人は追体験として、来場かなわなかった人はその雰囲気を味わって頂けたらと思います。

◆日展の回数表示が帝展から数えての118回展になりました。ちなみに、五科「書」の参入は1949年からで、76回目となるはずです。従って、本会の中日書道展は本年、75回目を数えますので、二年遅れの開催だったと思われます。当時、東海地方の名だたる先達のご尽力は計り知れない熱量と行動力があったのでしょう。（編集部）

ホームページアドレス
http://www.cn-sho.or.jp

メールアドレス
info@cn-sho.or.jp